名大トピックス No. 221

目 次

●ニュース
防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」を開催 3
RU11シンポジウム「東日本大震災：大学の責務と貢献を考える」を開催 4
赤﨑　勇特別教授がエジソン賞を受賞 5
第72回防災アカデミーを開催 5
●知の先端
烏骨鶏　５本指の謎解明 6
鈴木　孝幸（大学院理学研究科助教）
●学生の元気
大学生の私たちにできること 8
岩崎　慶太（法学部３年）
●部局ニュース
テクノ・フェア名大2011を開催 9
第12回国際研究集会を開催 10
国際学生会議（経済・経営分野）及び工場見学会を開催 10
第２回医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウムを開催 11
平成23年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催 11
ICCAE 第４回オープンセミナーを開催 12
世界化学年2011 特別企画 マリー・キュリーポスター展を開催 12
平成23年度目録システム地域講習会を実施 13
アフガニスタン写真展を開催 13
ミクロの探検隊を開催 14
第２回地球教室「砂の中から宝石をさがそう！」を開催 14
第15回博物館特別展「深海の生物と古生物ー知多の化石から生きているウミユリまでー」を開催 15
●新任部局長等の紹介 16
●受賞者一覧 16
●本学関係の新聞記事掲載一覧　平成23年８月16日～９月15日 19
●附属図書館からのお知らせ
附属図書館2011年秋季特別展「そろばんと和算書ー日本の計算文化にふれるー」を開催中 22
●イベントカレンダー 22
●ちょっと名大史
第９代総長 早川幸男（はやかわさちお） ― 名大をひきいた人びと⑭ ― 28

防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」を開催

1　トークセッションに参加する勝見副会長
2　トークセッションの様子
3　講演する石川病院長

防災・減災シンポジウム「東日本大震災から学ぶ災害医療と地域連携」が、９月３日(土)、豊田講堂において、日本赤十字社愛知県支部の特別協力を得て、朝日新聞社との共催により開催されました。台風12号の接近による悪天候にもかかわらず、一般の方々を中心に、午前の部には299名、午後の部には350名を超える参加者が来場しました。

午前の部は「災害医療の最前線～大震災から命を守る～」というテーマで実施されました。冒頭の開会あいさつでは、濵口総長から、災害対策本部の設置や、被災地への物資提供、人材派遣など、東日本大震災という未曾有の大災害を受けて、本学がどのような対応をしてきたのか、スライドを用いて説明がありました。

引き続き、石川　清名古屋第二赤十字病院病院長から「災害医療～大災害から学んだ教訓～」と題した講演があり、尾崎紀夫医学部附属病院精神科教授からは「こころの痛みを癒す－災害とこころ・脳」、愛知県薬剤師会の山口一丸氏からは「震災に負けない、医療をつなぐお薬手帳」、大野和美愛知県医師会副会長からは「東日本大震災における愛知県医師会の医療救護活動」をテーマに、それぞれ活動報告がありました。

その後、「経験から学ぶ災害時医療と一人ひとりの心構え」をテーマに、松尾医学部附属病院長をコーディネータとし、石川病院長、大野副会長、勝見章男愛知県薬剤師会副会長、亀島加代医学部附属病院看護部看護師長の４名のパネリストによるトークセッションが行われました。医師、看護師、薬剤師それぞれの立場からの心構えや、とるべき行動などを討論しました。

休憩を挟み、午後の部は「地域連携～地域の絆がひととまちを守る～」をテーマに開催され、鈴木康宏環境学研究科教授の開会あいさつの後、栗田暢之NPO法人レスキューストックヤード代表理事から「足湯ボランティア～つぶやきで綴る被災地の現状～」、俳優の伊勢谷友介株式会社リバースプロジェクト代表から「SNSを活用した即効力支援から、中長期的な支援『元気玉』へのシフト」と題した活動報告がありました。

続いて、「被災地に学ぶ地域連携のあり方」をテーマに、福和伸夫環境学研究科教授をコーディネータとし、栗田代表理事、伊勢谷代表、神島清司トヨタ自動車株式会社総務部総務室長、伊藤智章朝日新聞社宮古支局長の４名のパネリストによるトークセッションが行われました。長﨑　弘名古屋市消防局防災・危機管理監もパネリストとして参加することとなっていましたが、台風12号の接近に伴う出動に備えるため、欠席しました。

災害対策においては、産官学民、地域間、分野間、家庭内、世代間など様々な「連携」を強化し、災害を自分自身の問題と捉え、人任せにしないことが肝要です。参加者は、災害医療と地域連携について考えることで、災害に備える意識をさらに高めるきっかけを得たようでした。

赤﨑　勇特別教授がエジソン賞を受賞

赤﨑　勇本学特別教授が、８月20日(土)、米 サンフランシスコのマリオットホテルで開催された米国電気電子協会（IEEE：The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.）の栄誉賞授賞式において2011年エジソン賞を受賞（単独受賞）しました。

IEEE は、1884年に発足したアメリカ電気工学者協会（AIEE）と1912年に発足したラジオ工学者協会（IRE）が1963年に統合した協会で、160カ国に渡り40万人の会員を擁する世界最大の学会です。

受賞のスピーチをする赤﨑特別教授

授賞理由は、「窒化物半導体とそれを用いた可視発光ダイオード、レーザなどの光電子デバイスに関する独創的かつ開拓的貢献」です。

エジソン賞は、発明王エジソンの業績をたたえ1909年に創設された賞で、電気電子分野の材料やデバイス研究開発の草分けと認められる人に贈られるものです。該当者なしの年もあるほど、厳しい人選が行われる賞です。日本人としては２人目の受賞です。

第72回防災アカデミーを開催

第72回防災アカデミーが、９月13日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

今回は、西澤邦秀本学名誉教授が「東電原発事故による環境汚染が地域住民に及ぼしている影響－衣・食・住・被爆・健康、法規制－」と題し講演を行いました。

西澤名誉教授は、放射線の安全管理や人体への影響を専門とし、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故に関しては、放出された放射性元素による環境汚染について調査研究し、対応策を提言しています。そのために、日本放射線安全管理学会で全国の研究機関に呼びかけ、放射性ヨウ素・セシウム安全対策アドホック委員会を組織しています。

会場の様子

講演ではまず、放射線と放射能の基本的な説明があり、ベクレル、グレイ、シーベルトなどの単位の意味、放射線の人体への影響、被爆限度や飲食物摂取の基準値等をわかりやすく解説し、さらには、福島第一原子力発電所から放出されたヨウ素131とセシウム137の量は、広島市に原子爆弾が投下された際に放出された量よりはるかに多いことを指摘しました。

また、同委員会の活動について、組織の段階で信頼できる専門家を集めるようにしていること、試料の入手や研究者への配送などに気を配って正確な分析に力を注いでいることなどについて述べ、その経験から得られた具体的かつ詳細な除染の方法や効果の分析などを説明しました。

会場は121名の参加者で満員となり、講演後の活発な質疑もあり盛況のうちに終了しました。